〔貞要集一上〕臺子起

一臺子の起は、筑州崇福寺の開山南浦紹明和尚入唐し、歸朝の時、始て臺子一莊携來れりとなり、それより紫野大德寺に傳はれり、其後尊氏將軍の御時代、天龍寺開山夢窓國師、築山泉水遣水等の作り庭を營み、臺子を以て茶會を執行はれしとかや、此時より茶道漸世に行はれ、武家にも茶亭作庭を構、賞翫せしより、臺子武家に渡れり、かくて慈照院義政公の時までは、臺子の茶式も區區なりしに、其頃名を得し茶人を召集、茶道の法式、幷名物の茶器を詮議し給へるに、中にも南都稱名院の住僧珠光は、茶道におゐて自得融通の聞えありしをめされて、能阿彌、相阿彌立合、臺子長盆茶入臺天目の茶式を定られしより、臺子の法は後世に傳はれり、唐より來れる風爐釜は、今の篦蒙（ノカツキ）釜銅風爐成べし、珠光始て土風爐を燒せ、羽釜を透木居にして臺子の茶湯に用ひしと也、今頗當風爐を用ひて五德居にせしは、紹鷗宗易比より始れり、是今の奈良風爐なり、

〔茶事談上〕珠光三十歳ノコロ禪僧トナリ、京師紫野大德寺眞珠菴ニ住ス、〇略中其頃京師紫野大德寺ニ臺子アリ、何ノ具トモ知人ナシ、コレハ往昔宋朝ヨリ日本筑前ノ博多聖福禪寺〇略註ニ贈リ來ル茶棚ナリ、今茶人ノ眞臺子ハコレヨリハジマル此棚ノチニ大岳山ヘ傳ヘ、年ヲ歷テ又京師大德禪院ニ來ル、珠光コレヲ見テ、是他具ニ非ズト云テ、茶事ニ取リ用ヒタリ、其具ハ風爐鍑、〇略註熟盂、分盈建、炭櫃、建水、珠光コレヲ茶會ノ本トシ、丈方之室〇略註ニ飾テ、敬禮ヲ備テ諸人ニ飲シム、

〔長闇堂記〕一及第臺子と云は、唐の朝廷に、及第に試らるゝ學士の出入する門の額に似たるとて、此臺子を及第と名付しなり、唐より渡りて、天王寺や宗及有しを、宗凡の世となりて、織部殿かり寫し給ひて後、世に流布せしなり、棚の内のかざりと云も、天王寺やの外には、さらずとなり、其棚にての茶に一度逢候なり、江月和尚に有なり、書棚に似たる物なり、溜ぬりにして下ゲ違の戸袋あり、